宮崎国際大学教育学部紀要『教育科学論集』第 7 号（2020）82－89 頁

幼児の基本的生活習慣に対する保育系学生の意識と課題の変化
－テキストマイニングを用いた分析から－

城戸　佐智子　　高妻　弘子*

要約

現代社会において、家庭での生活様式は大きく変化し、それに伴う形で子どもの生活も変化している。基本的生活習慣の獲得においても影響を受けており、昔と比較すると遅れが見られる。基本的生活習慣については、幼児期に獲得することが望ましいとされており、幼児の発達や保育を考える際にも大変重要な指標となる。そのため、保育者は基本的生活習慣の獲得時期について認識しておかなければならない。本研究では、アンケート調査によって基本的生活習慣の獲得について学生に意識づけるとともに、保育者を目指す保育系学生が考える幼児の基本的生活習慣についての意識や課題が「保育内容『健康』の指導法」の受講前、15 回の受講後、幼稚園教育実習後でどのように変化するのか検討する。

方法は、宮崎学園短期大学保育科 2 年生「保育内容『健康』の指導法」の受講者 186 名を対象に、令和 2 年 4 月から 9 月にかけて「保育内容『健康』の指導法」の受講前、15 回受講後、幼稚園教育実習実施後の 3 回、幼児の基本的生活習慣についての記述式アンケート調査を行った。その後、学生からの全ての回答を項目ごとに AI テキストマイニング[注]に入力し、重要度を加味したスコアと共起ネットワークから学生の考える課題を考察した。

「保育内容『健康』の指導法」の受講前のアンケートでは、主な基本的生活習慣の「食事」「排泄」「睡眠」「衣服の着脱」「清潔」に関係する単語が出現した。共起ネットワークの全体図を見ると、基本的生活習慣のそれぞれの項目ごとにまとまっており、学生は基本的生活習慣を一つ一つ別のものとして捉え、関連付けて考えている学生は少ないといえる。

15 回の講義終了時点では、第 1 回目の結果と比べると、それぞれの基本的生活習慣を生活の中のものとして捉えている。共起ネットワークについても、第 1 回目より単語がまとまって繋がっていることが分かる。生活を通して基本的生活習慣が繋がっていると感じていることが推測される。

幼稚園教育実習実施後では、新たに「歳児」「援助」「掛け」という単語の出現から、基本的生活習慣の獲得に向けて、それぞれの子どもの発達に合った声掛けなどの援助を行うことが重要であるという意識が高まったと考えられる。

キーワード：幼児、基本的生活習慣、保育学生、意識・課題、変化

１．はじめに

現代社会において、家庭での生活様式は大きく変化し、それに伴う形で子どもの生活も変化している。睡眠や食生活の変化、運動機能の未発達、遊びなどにおける直接体験の減少など、様々な面で変化が生じている。

基本的生活習慣の獲得においても影響を受けており、昔と比較すると遅れが見られる。ベネッセ教

育総合研究所の第 5 回幼児の生活アンケートレポートによると、あらゆる項目で通過率が減少している。例えば、「おはしを使って食事をする」という項目おいて、4 歳児は 2005 年度調査では 83.7%、2010 年度調査では 81.9%、2015 年度調査では 72.1%という通過率であった。また、「オムツをしないで寝る」という項目においても、2005 年度調査 81.1%、2010 年度調査 70.9%、2015 年度調査 66.0%という結果であり、10 年間で大幅に通過率が減少している。その他にも、排泄（排尿前に知らせる、大便の自立）、睡眠（決まった時間に寝起きする）、清潔（歯磨き）、衣服の着脱などにおいて、顕著に遅れが見られることが報告されている（高岡ら 2016）。

基本的生活習慣については、幼児期に獲得することが望ましいとされており、幼児の発達や保育を考える際にも大変重要な指標となる。また、基本的生活習慣の獲得については、「保育所保育指針」（厚生労働省 2018）「幼稚園教育要領」（文部科学省 2018）「幼保連携型認定こども園 教育・保育要領」（内閣府・文部科学省・厚生労働省 2018）においても領域「健康」のなかに明記されており、保育者として幼児に適切な援助をする必要がある。そのため、保育者は基本的生活習慣の獲得時期について認識しておかなければならない。また、保育者を目指す保育系学生においては、養成校の講義内でしっかりと学ぶ必要がある。保育系学生が講義内で基本的生活習慣についての発達や獲得時期を把握し実習で実感することで、保育者としての視点を持つことができると考える。

２．研究の目的

本研究では、アンケート調査によって基本的生活習慣ついて学生に意識づけるとともに、保育者を目指す保育系学生が考える幼児の基本的生活習慣についての意識や課題が「保育内容『健康』の指導法」の受講前、15 回の受講後、幼稚園教育実習後でどのように変化するのか検討する。

３．研究の方法

宮崎学園短期大学保育科 2 年生「保育内容『健康』の指導法」の受講者 186 名を対象に、令和 2 年 4 月から 9 月にかけて「保育内容『健康』の指導法」の受講前、15 回受講後、幼稚園教育実習実施後の 3 回、幼児の基本的生活習慣についての記述式アンケート調査を行った。質問項目は下記の通りである（表 1 参照）。

表１　アンケート調査項目

第 1 回目（R2.4）	問 1	3 歳以上児の基本的生活習慣（食事・排泄・睡眠・着衣脱・清潔）に関して、どのような課題があると思いますか。
	問 2	その理由（原因）は何だと思いますか。
	問 3	基本的生活習慣に関して必要だと思う援助・支援にはどんなことがあると思いますか。
第 2 回目（R2.8）	問 1	15 回の授業を通して、基本的生活習慣やその獲得について、現在、子どもの現状をどのように捉えましたか。
	問 2	その現状を、どう感じましたか。

	問 3	今まで、自分が考えてきた子どもの生活習慣の獲得に関する課題について、保育者としてどのような対応をしていきたいと思いますか。具体的に書きましょう。
	問 4	また、どのような対策をしていきたいですか。
第 3 回目（R2.9）	問 1	3 歳以上児の生活習慣（食事・排泄・睡眠・着衣脱・清潔）について、教育実習を通して見えた子どもの実態はどうでしたか。
	問 2	1 に関して感じたこと、気付いたことは何ですか。
	問 3	あなたが実際におこなった援助や支援を教えてください。
	問 4	教育実習を経験して、3 歳以上児の基本的生活習慣に関して新たに感じた課題は何ですか。
	問 5	課題だと感じた理由を教えてください。
	問 6	その課題に対して、保育者としてどのような対応、対策をしていきたいですか。

本研究では、各回における保育学生の幼児の基本的生活習慣に対する意識の変化に注目するため、第 1 回目問 1、第 2 回目問 1、第 3 回目問 4 の回答を採用した。全員の回答を問いごとに AI テキストマイニングに入力し出現単語を抽出、重要度を加味したスコアの高い単語と共起ネットワークから分析を行い、保育学生の基本的生活習慣に関する意識について考察した。なお、研究対象となった宮崎学園短期大学保育科学生には同意を得ており、宮崎学園短期大学の倫理審査委員会の承認を得ている。

４．結果と考察

(1) 第 1 回目アンケート

「保育内容『健康』の指導法」の受講前のアンケートでは、主な基本的生活習慣の「食事」「排泄」「睡眠」「衣服の着脱」「清潔」に関係する単語が出現した（表 2 参照）。

中でも「排泄」が 415.11 ポイントという高いスコアを示したことから、多くの保育学生の意識が排泄に向いていることが分かった。また、排泄に関係する単語である「オムツ」という単語も出現していることから、オムツが取れない子どもにも課題を見出していると考える。共起ネットワークを見ると、「漏らす」と「しまう」が一緒に使われている（図 1 参照）。回答の詳細を併せて見てみると、「活動中にお漏らしをしてしまう」と回答している学生が多く、そのため、活動中に夢中粗相をする子どもが多いと考えていると推測される。

表 2　第 1 回目アンケート
出現単語の順位とスコア

	第 1 回目	
順位	単語	スコア
1	排泄	415.11
2	着脱	199.04
3	清潔	124.23
4	食事	122.05
5	好き嫌い	104.56
6	睡眠	103.99
7	衣服	50.72
8	着衣	38.77
9	オムツ	30.38
10	手洗い	24.78

「食事」に関して、「好き嫌い」「食べる」がともに多く出現しており、「偏食」という単語も出現し

ていることから、多くの学生が好き嫌いなく食事をすることが望ましいと考えているといえる。また、共起キーワードから「箸」と「使う」「難しい」「正しい」という単語が繋がっていることから、箸の使用についても課題を見出している。

「睡眠」に関して、共起ネットワークから「睡眠時間」「短い」「長い」「早い」「遅い」がともに出現していることから、睡眠時間の長短や早寝早起きに意識が向いており、課題を見出していると考える。また、「園」「眠い」「悪い」という言葉が繋がっていることから、睡眠が園での活動にも影響を及ぼしていると考えているといえる。回答の詳細を見ると、「寝る時間が遅い」「睡眠不足である」という回答が多かった。

「衣服の着脱」に関して、共起ネットワークから「衣服」「前後」がともに出現しており、また「ボタン」という単語も出現していることから、衣服の着脱における技術の未熟さに意識が向いていると考える。回答の詳細では、「衣服を前後間違えて着る」「ボタンがかけられない」「一人で着替えができない」などの回答が多かった。

「清潔」に関しては、「手洗い」「洗う」といった単語が出現しており、手洗いに意識が向いていることが分かった。また、記述の詳細を見ると、排泄と結び付けている学生も多かったため、手洗いだけでなく、排泄に関する清潔にも意識が向いていると考える。その他にも「うがい」について記述している学生もいた。

共起ネットワークの全体図を見ると、基本的生活習慣のそれぞれの項目ごとにまとまっており、学生は基本的生活習慣を一つ一つ別のものとして捉え、関連付けて考えている学生は少ないといえる。

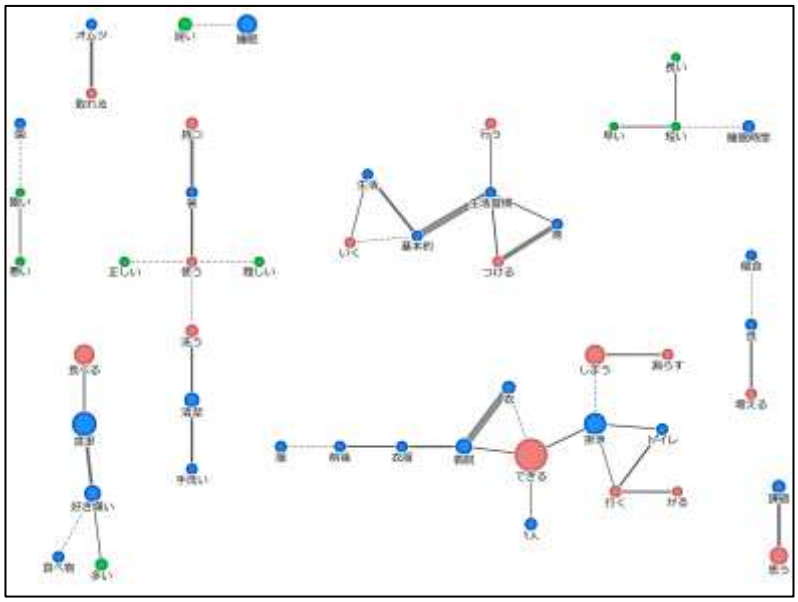

図 1　第 1 回目アンケート共起ネットワーク

(2) 第 2 回目アンケート

「保育内容『健康』の指導法」の 15 回の講義終了時点では、「子ども」が 208.85 ポイントと高いスコアを示した（表 3)。合わせて共起回数を見ると、「生活」「生活習慣」と結びついていることが多かったことから、子どもの生活リズムや生活習慣を捉えて課題を見出していることが分かった。また、

「運動不足」「睡眠不足」などの単語が出現していることから、幼児の一日の生活を通して課題を見出していると考えられる。これは、講義内で幼児を取り巻く環境や現状を詳しく学んだため、生活を含めた回答が増えたと考える。

共起ネットワーク（図 2）から、「生活リズム」と「睡眠」「睡眠不足」が繋がっており、「乱れる」という単語に強い繋がりがあることから、生活リズムに睡眠が大きく影響していると考えている学生が多いことが分かる。

また、食事に関しては、「こしょく」「朝食」「栄養」「バランス」などの単語が新たに出現し、「箸」などの単語が出現していない。「好き嫌い」や「箸の使用」だけでなく、幼児の一日の生活を考えた課題を見出しているといえる。

表 3　第 2 回目アンケート
出現単語の順位とスコア

	第 2 回目	
順位	単語	スコア
1	子ども	208.85
2	運動不足	94.34
3	リズム	93.78
4	共働き	88.81
5	睡眠不足	72.06
6	朝食	55.38
7	生活	55.11
8	捉える	54.92
9	生活習慣	51.80
10	食事	41.68

さらに、「家庭」「共働き」「環境」といった単語も出現している。食事に関する単語と併せて考えると、15 回の授業を通して、基本的生活習慣の獲得に家庭の生活環境が大きく影響し、そのため、家庭と連携する必要があることに学生が気づいたと考える。

第 1 回目でスコアが高かった「排泄」に関しては、出現単語は少なかったものの、回答を見ると、「成功体験が必要」「大人の援助が大切であると感じた」など具体的な援助の記述が見られた。「衣服の着脱」に関しても、同様の傾向が見られた。「清潔」に関しては、「気持ちいい体験をたくさんする」「手洗いなどを習慣化する援助が必要」などの記述が見られた。

第 1 回目の結果と比べると、それぞれの基本的生活習慣を生活の中のものとして捉えている。共起ネットワークについても、第 1 回目より単語がまとまって繋がっていることが分かる。基本的生活習慣は、家庭生活、園生活を通して全て繋がっていると感じていると推測される。

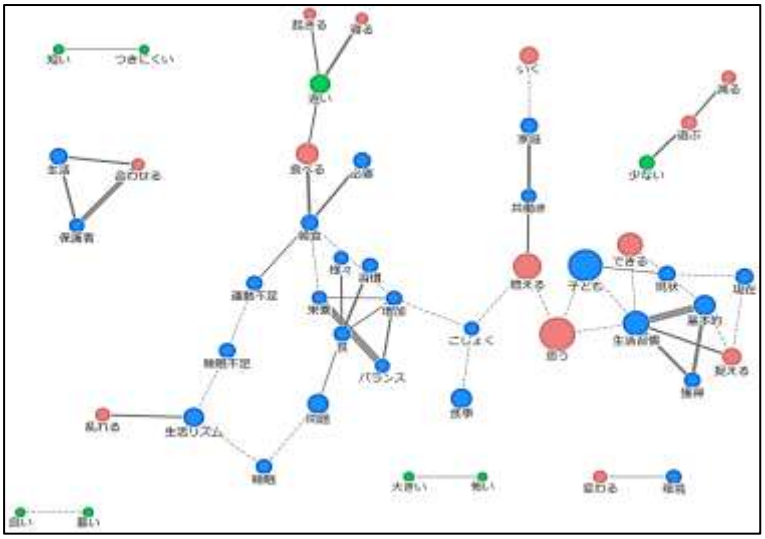

図 2　第 2 回目アンケート共起ネットワーク

(3) 第 3 回目アンケート

幼稚園教育実習後では、「排泄」のスコアが他の単語よりも高めであったが（表 4 参照)、学生の回答の詳細を見ると、9 月 5 歳児を担当していた学生も多く、「自分が想像していたよりもできていた」「大体の子どもが問題なくできていた」という回答が見られた。3 歳児を担当した学生の回答にも、同様の記述が見られ、実際の現場では、3 歳以上児は学生が予想していたよりも自分でできることが多かったと推測される。

食事に関しての単語で、「給食」や「マナー」などが出現していることから（図 3 参照)、集団生活での基本的なマナーや態度について意識が向いている学生も見られるようになったと考える。

新たに「歳児」「援助」「掛け」という単語の出現から、基本的生活習慣の獲得に向けて、それぞれの子どもの発達に合った声掛けなどの援助を行うことが必要であるという意識が高まったと考えられる。共起ネットワークを見ると、「子ども」「個人差」「大きい」「苦手」などがまとまって出現しており、このことからも幼児一人ひとりの発達を捉えていることが分かる。また、全体的に「見守りながら援助する」「分かりやすい短い言葉で伝える」「一人ひとりの発達を見極めて援助する」など、保育者としての具体的な援助の仕方の記述が多くみられ、保育者として一人ひとりに合わせた援助をしようという意識が芽生えていると推測される。

スコアの数値に関しては、実習後ということで自分自身の課題と捉えて回答した学生もいたため、全体的に重要度が下がる結果となったと考えられる。

表 4　第 3 回目アンケート
出現単語の順位とスコア

	第 3 回目	
順位	単語	スコア
1	排泄	33.69
2	掛け	18.58
3	食事	8.18
4	子ども	7.66
5	歳児	6.35
6	好き嫌い	5.90
7	給食	5.36
8	手洗い	3.89
9	援助	3.77
10	歯磨き	3.50

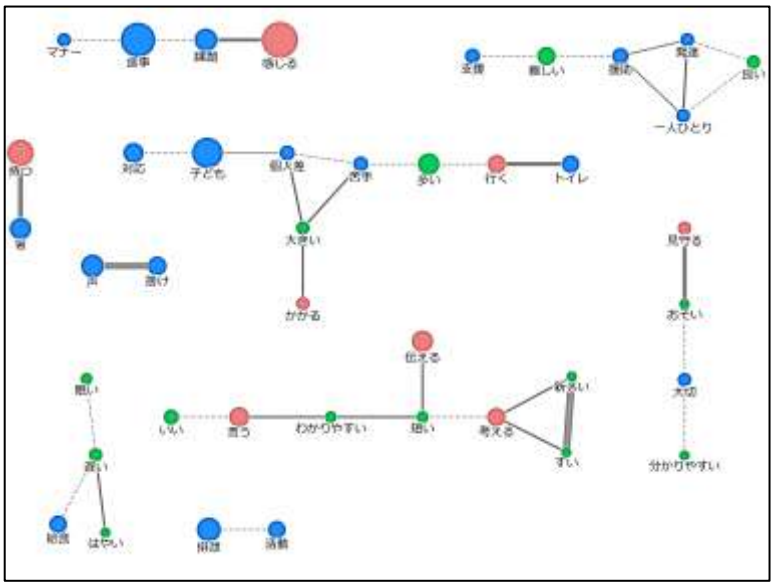

図 3　第 3 回目アンケート共起ネットワーク

５．まとめ

本研究では、アンケート調査によって基本的生活習慣の獲得について学生に意識づけるとともに、保育者を目指す保育学生が考える幼児の基本的生活習慣についての意識や課題が『保育内容「健康」の指導法』の受講前、15 回の受講後、幼稚園教育実習後でどのように変化するのか検討することを目的とした。

基本的生活習慣についての保育学生の意識・課題の変化を分かりやすくするため、表 5 のようにまとめた。

表 5　基本的生活習慣についての保育学生の意識・課題の変化

	第 1 回目アンケート	第 2 回目アンケート	第 3 回目アンケート
食事	・好き嫌い、偏食が多いと考えている ・箸の使用について課題を見出している	・出現単語が幼児の一日の生活を意識したものとなり、そこから課題を見出している	・集団生活での食事のマナーや態度に意識が向いている
排泄	・排泄に関して一番関心をもっている ・排泄が自立できていない幼児が多いと思っている ・オムツが取れる時期が遅くなっていることに課題を見出している ・夢中粗相をする幼児が多いと考えている	・「成功体験が必要」「大人の援助が大切だと感じた」など、保育者としての援助に意識が向き始めている	・保育現場では、自立している幼児が多かった ・個人差が大きく、一人ひとりに合った援助が必要だと感じている
睡眠	・睡眠時間や早寝早起きに意識が向いており、課題を見出している ・睡眠が園での活動にも影響を及ぼすと考えている	・生活リズムに睡眠が大きく影響していると考えている ・幼児の睡眠不足を課題と感じている学生が多い	・家庭での睡眠が課題だと感じている
衣服の着脱	・衣服の着脱に関する技術的なことに意識が向いている	・排泄と同様、保育者としての援助に意識が向き始めている	・個人差が大きいと感じており、個別の対応が求められると考えている
清潔	・手洗い、うがいに多くの学生の意識が向いている ・排泄時での清潔についても意識が向いている	・排泄と同様、保育者としての援助に意識が向き始めている	・衣服の着脱と同様、個人差が大きいと感じており、個別の対応が求められると考えている
全体	・基本的生活習慣をそれぞれ別のものと捉え、繋がりを感じていない学生が多い	・家庭生活、園生活全てを通して基本的生活習慣について考えている	・保育者としてどのように援助していくかを具体的に考え始めている

		・基本的生活習慣を生活の中で捉えるようになっている ・運動や遊びとも結びつけて考えている	

対象者は、1 年次の 2 月に保育所での観察実習を経験しているが、2 年次 4 月の時点では、基本的生活習慣を別々のものとして捉えている。これは、「保育内容『健康』の指導法」を受講する前であり、基本的生活習慣を特別意識していなかったためだと考えられる。15 回の講義受講後には、幼児を取り巻く環境や現状から基本的生活習慣についての課題を見出していることから、15 回の講義を通して、基本的生活習慣について学生に意識づけることができたと考える。また、15 回の講義の中で、幼児自身の課題だけでなく、保育者としてどのように援助していくか考え始めているため、保育者としての自覚が徐々に芽生えているといえる。幼稚園教育実習終了後には、基本的生活習慣から発達を捉え、幼児一人ひとりに合った援助を具体的に考えようとしており、幼児の園での様子から、家庭での生活にまで意識を向けるようになっている。これは、幼児の生活リズムや生活習慣を意識しての対応であると考える。このことから、養成校で学ぶ内容は、学生の今後の学びに大きく影響するものであるといえる。

今回、このような取り組みを行なったことで、学生の意識が講義を受けることでどのように変化していくのか知ることができた。この結果を参考に、今後の講義内容について考え、学生がより理解を深められる講義を展開していきたい。

*高妻弘子　宮崎学園短期大学保育科

注　AI テキストマイニングは文章から単語の出現率の解析や感情の分析を行うツールであり、大量の文字・文章のデータの中から、有益な情報を取り出すための手法として使われている。株式会社ユーザーローカルによって開発された。

引用および参考文献例

高岡純子・田村徳子・荒牧美佐子・真田美恵子（2016）.「第 5 回幼児の生活アンケート」,『ベネッセ教育総合研究所』,（https://berd.benesse.jp/jisedai/research/detail1.php?id=4949　2020 年 12 月 14 日取得）

厚生労働省（2018）.『保育所保育指針解説』, フレーベル館.

文部科学省（2018）.『幼稚園教育要領解説』, フレーベル館.

内閣府・文部科学省・厚生労働省（2018）.『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』, フレーベル館.